

平成24年度 第1回埼玉県立図書館協議会会議録

◇ 日 時 平成24年7月25日（水） 午前10時～午後0時

◇ 会 場 県民健康センター 大会議室C

◇ 出席者 (1) 出席委員

内田一雄委員	松田昌雄委員	久保田洋子委員
松山妙子委員	佐藤淑恵委員	青木淳子委員
小笠原清春委員	関口聡美委員	田島俊秀委員
坂西友秀委員	小谷野幸夫委員	村田三恵委員

(2) 図書館職員

【県立浦和図書館】

根岸館長 嶋村副館長 乙骨副館長 西島教育主幹

榎本主席司書主幹 高橋司書主幹 小西主任司書 坂本担当課長

【県立熊谷図書館】

杉田館長 千吉良副館長 橋本教育主幹

【県立久喜図書館】

渡邊館長 民本副館長 伊藤教育主幹

◇ 会議次第

- 1 開 会 [浦和図書館 西島教育主幹]
- 2 あいさつ 県立浦和図書館 根岸館長
- 3 職員紹介
- 4 委員異動報告
- 5 会長・副会長選出
委員の互選により、会長に小笠原委員、副会長に坂西委員を選出した。
- 6 会長・副会長あいさつ
- 7 平成23年度第3回会議録報告
- 8 会議録署名委員の指名
会長が、青木委員と関口委員を指名し、了承された。
- 9 会議の公開について議決
傍聴希望者なし
- 10 議 事
(1) 平成23年度利用状況について（報告）

[浦和図書館 乙骨副館長]

資料1に基づき、平成23年度利用状況について説明

【質疑】

- 委員／平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災による電力不足で、計画停電や節電といった事情があった中で良く頑張っていたと思う。利用状況の中で熊谷や久喜の児童書の貸出冊数は伸びていたが浦和はそうではなかった。この資料は 2 年分の統計だが、もう少し過去のデータがあるのか。
- 事務局／児童書の貸出は、大きく伸びてきたということはないが、他の一般書と比較して横ばいから微増の傾向である。
- 委員／社会の傾向として少子高齢化があり、子どもの数が減少する中であっても児童サービスは重要なサービスと考えるが、県立図書館のサービスとして、利用が増加することがサービス向上であるという考えなのか。
- 事務局／一般的に、子どもは活動するエリアが限られているので、身近な図書館に行く。身近である市町村の図書館が充実してくると、県立図書館の利用は落ちていく。そのような状況の中で、県立図書館は近隣の児童だけではなく、県内の市町村へのサービスを念頭に置いていて、例えば児童書の網羅的収集を行い、その図書のない市町村へ貸し出すといったことを行っている。このように県立の利用がすぐ伸びる、といったことよりも全県を視野に入れ活動を行っている。
- 会長／次の図書館サービス評価指標とも密接にかかわっているので、そこでまた質問していただいてもよい。

(2) 図書館サービス評価指標について (報告)

[浦和図書館 榎本主席司書主幹]

資料 2 に基づき、重点目標とサービス評価指標について説明。

【質疑】

- 会長／サービス評価小委員会に携わった 4 名の委員の方から補足等はあるか。
- 委員／委員会を 2 回開催し、事務局が詳細な資料を作成していたのでスムーズにいったが、委員からは詳細な点から、例えばウェブサイトアクセス件数において検索条件入力ページのアクセス件数や横断検索トップページのアクセス件数を新たに追加するといった大きな点まで含めてたくさんの意見が出た。また、2 回目の委員会で指摘した点も修正されており、特に意見はない。
- 会長／他の委員はいかがか。ないようなら全体的にご意見はいかがか。
- 委員／利用者満足度の点で一番高いのが職員の対応であり、頑張っていることが伺える。設備が 3.6 と低いのが、昨年度も言ったが県立と市町村の違いとして、「頼れる知の集積センター」としては素晴らしいが、おしゃれでくつろげる場でもあってほしい。それらの工夫も継続してほしい。
- 会長／評価指標は数字で表さなくてはならないというところが非常に難しい。表すことができないものもあると思うがそこをいかにアピールできるか、という点がこれからの課題なのかな、と思う。また、国立国会図書館のレファレンス協同データベース事業において、レファレンス事例数、被参照回数が全国一というのをブランド化できないかと思う。協議会の中で考え方を提案させてもらうこ

とも考えられる。また、ネットでの利用も考えていく必要がある。利用満足度の職員の対応が高いというのは、設備や資料の不足部分を職員の対応で補っているのかな、とも考えられる。

(3) さいたま市との連携事業について

[浦和図書館 榎本主席司書主幹]

資料3に基づき、さいたま市との連携事業について説明。

【質疑】

委員／限られた予算の中で資料収集の役割分担を行うのは良い考えだと思うが、このようなハード面だけでなく、寄贈図書を受入を増やしていくための人員、人材の確保は大丈夫なのかと思う。また、資料の相互利用のためにも人員が必要だと思うが、何か考えていることはあるのか。

事務局／この連携の中では考えていないが、例えばレファレンスについて、高度な案件については県立図書館で行うといった役割分担は考えられる。また、収集資料について、例えば市町村立図書館では一般的な図書、娯楽的な図書が中心になるが、県立図書館では専門的な図書を整備している。また、寄贈図書についても同じような考えに基づいており、県立図書館では一般的な図書は受け入れないが、調査・相談に活用できる図書や一般の流通に乗らない政府刊行物などを積極的に受け入れている。

委員／共同企画展示の「自慢できる風景」というテーマが決まった基本的コンセプトを教えてほしい。また、「自慢できる風景」を皆さんがご覧になった後に、次のような行動をとることを期待しているのか。

事務局／テーマが決定した経緯は不明。平成23年11月8日に第60回の九都県市首脳会議があり、さいたま市長から知識・情報資源としての図書館の活用というテーマで共同研究したいという提案があった。それを受けて知識・情報資源としての図書館利活用研究会が設置され、その中で共同展示を行うことが決定された、という経緯は確認できているが、テーマの決定理由は確認できていない。

副会長／マイクロフィルムの劣化についてはどう考えているのか。国立国会図書館も明治期のものをデジタル化するなどの対応をしている。

事務局／いわゆる資料の媒体変換については、議題として挙がっていなかった。あくまでも利用の中での役割分担である。

委員／前の議題の話になってしまうが、年間の受入冊数が年間出版点数の15%程度であるなかで、昨年度は交付金の影響で21.4%となった。しかし、今年度は目標冊数を大幅に下げている。寄贈図書を増やしていくとは言っても、図書館として新規にある程度購入していかないといけないのではと思うが、どのように考えているのか。

事務局／予算の関係については、10年前と比較するとかなり下がっている。毎年度予算要求は行っている。年に何度か、当初予算の他、臨時の予算措置の要望調査が

あれば必ず申請している。寄贈図書について、市町村立図書館ではなかなか対応できないところと思う。県立図書館では国立国会図書館で作成している全国書誌や新聞等を確認することで情報を得て、対応しているが、時間がかかる作業である。

- 委員／県立図書館が目指すべき部分を考えると、図書の購入は生命線ではないのか。
- 事務局／年間出版点数のうち何%そろえればいいのか、という客観的基準はないが、様々なデータを用意して県立図書館としての必要性を財政には訴えている。併せて寄贈資料は書誌データを作成しなくてはならないため、市町村立図書館ではなかなか対応できない。それを積極的に県立図書館で行うということは、新規の購入が少ない部分を寄贈図書で埋めるということではなく、購入と寄贈を合わせた全体の質によって市町村立図書館で困難な部分を担うということであると考えている。
- 会長／市町村も予算がだいぶ減ってきている。例えば出版されたものが必ず1冊は埼玉県内のどこかの図書館にある、といった役割分担もあると思う。さいたま市との連携は、単なるさいたま市域という枠組みではなく県立図書館として、政令市の図書館として、埼玉県全体にどのような役割を果たしていくのか、という視点でとらえてほしいと思う。収集も大切だが、収集した資料をどのように活用していくのかという点も重要なので、そこもしっかりやってほしい。また、企画展はなかなかさいたま市以外への影響は難しいと思うが、規模の大きいものなので、是非積極的に広報を行ってほしい。
- 委員／さいたま市立中央図書館がビジネス支援サービスを行っているが、浦和図書館との調整を行った方がよいのではないか。また、16ミリフィルムの映写機について、浦和図書館には2台しかないが、さいたま市は北図書館に20台あり、機械自体が貴重なものなので、相互運用を考えてみたらどうだろうか。
- 会長／ビジネス支援に関しては次の議題に関係するので、そこで併せて事務局から回答することにする。
- 委員／展示の具体的な内容が良く見えないが、ある程度決まっているのか。
- 事務局／県立図書館の方では県内30箇所を選び、その風景の今と昔を比較して見られるように並べ、関連の資料を併せて展示する。また、動画を流し、風景を見られるようにする。さいたま市と検討しているのが、参加型の展示としてフェイスブックを活用して投票してもらうという案である。
- 委員／県立図書館の役割として、検索機能の充実に重点を置くのも一つと考える。図書は全てそろえるのではなく、選別して限られたものを保存するのでよいと思うが、研究論文の研究者名や論文名が検索できたりすると非常に良い。
- 会長／今後の検討ということをお願いしたい。

(4) ビジネス支援サービスについて

〔浦和図書館 小西主任司書〕

浦和図書館のビジネス支援サービスについて説明を行った。併せてさいたま市立

中央図書館が実施しているビジネス支援サービスとの役割分担について説明を行った。

【質疑】

委員／ビジネス支援サービスを行うにあたって、職員の配置や異動について何か考えがあるのか。

事務局／このサービスを担当するのは浦和図書館の社会科学資料担当であり、その中の一部の職員にビジネス支援協議会が主催するビジネス支援サービスの研修を受講させ、その成果を担当内にフィードバックすることでサービスのレベルアップに努めている。その研修を受講した職員が県立図書館全体に数名いる。それらを念頭に置いて職員配置を考えている。

委員／県議会で質問があったことがきっかけであったという説明があったが、図書館でビジネス支援というのがピンとこない。ビジネス支援は産業労働部の仕事ではないのか。どの程度周知されているものなのか。そもそも「県立図書館のあり方」というのが不明である。

事務局／一つのサービスを見える形にしたものである。「図書館にはこれだけ情報がある」というのをアピールする手段でもある。ビジネス支援サービスに特化するということではなく、「無料貸本屋」「研究者向け」といった昔のイメージを払拭するためにも仕事に役立つことを強調する「ビジネス」という言葉を使っている。

委員／私個人の考えだが、県立図書館の展望を考えた時、「県立図書館のあり方」の中での位置づけが見えない。

事務局／全体像は県教育委員会で現在検討中である。そこに向けて、浦和図書館のビジネス支援サービスのほかに、久喜図書館の健康医療情報サービスなどを特出しする形で実施している。最終的に全体像の中に落とし込めればよいと考えている。

会長／「図書館として何をやるか」というプレゼンテーションの問題。今までは、図書館の機能を説明するのに、資料の収集・提供・保存としていたものが、近年は具体的にどう役立つのかという観念からアピールしようとしており、そうしたプレゼンテーションの一つがビジネス支援であったり医療情報の提供であったりする。今まで保存していた図書が利用者の課題解決の役に立つ、こんなにたくさんの情報が図書館にはある、というのを形で表わそうというもの。小さな市町村立図書館であっても、このようなサービスに取り組もうとしていることから、県立図書館には是非より一層頑張ってもらいたい。

(5) その他

委員／県立高校の司書の人員配置に今後とも配慮いただきたい。併せて県立図書館と市町村立図書館との連携同様、県立高校図書館との連携も考えていただきたい。

会長／高校図書館との連携に関してはまた改めて時間をとってもらえればと思う。

議事終了

11 閉会

[浦和図書館 西島教育主幹]

会議録署名

会 長 _____ 印

委 員 _____ 印

委 員 _____ 印